

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
デイサービスまりも平野東&		令和8年3月2日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10		日々の利用状況を把握し、利用者一人ひとりが充実した活動に取り組めるよう支援している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10		人員配置基準に則り、必要な職員体制を確保している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10		利用者エリアと職員エリアを区分し、表示等により識別しやすいよう配慮している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		就業前後に清掃を実施し、衛生管理の徹底を図っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		利用目的に応じて、活動空間と安静空間を分けて提供している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	10		職員全体の理解促進を目的とした説明を実施している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		保護者の意向をすべて反映することは難しい場合もあるが、真摯に受け止め、改善可能な点については速やかに対応できるよう努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		日常的に利用者の様子や支援の在り方を検討し、支援内容および業務改善に反映している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		10		第三者との関わりがあまり持っていないので持てるようにする。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		定期的（月1回）に研修を開催するとともに、自主主催の研修にも取り組んでいる。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		個別支援計画に基づき支援を行い、あらかじめ決められた活動は設けず、利用者が自ら選択し活動できるよう配慮している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10		保護者からの聞き取りや利用者の状況を踏まえてアセスメントを実施し、その内容を基に個別支援計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		計画作成時にはケース会議を行い、児童にとって最も望ましい支援となるよう協議している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		書庫で管理し、必要に応じて直ちに閲覧可能な体制を整えている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10		保護者から継続的に発達検査の結果などの共有を受け、理解したうえで当該児童の支援に反映している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		モニタリング等を通して保護者のニーズを把握し支援内容に反映するとともに、日々の関わりの中で当該児の成長面や課題を捉え、支援へとつなげている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		10		あらかじめ決められたプログラムは作成せず、利用者が規律を意識しつつ自由に活動できるよう支援している。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		10		あらかじめ決められたプログラムがないため、内容が固定化されることはない。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10		個別で身につけたスキルが集団の中で発揮できるよう、活動同士を関連づけて支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10		事前に決定することも一方で、利用者の状況に配慮し、固定化せず対応することもある。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10		就業後にケースの振り返りを行い、職員間で情報共有を図っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		連絡帳を通して、日々の活動内容を記録・管理している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		保護者からの要望を確認し、それを踏まえて支援や計画書を適宜見直している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	10		個別支援計画書に基づき、支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10		活動の選択を利用者に委ねることで、主体性や自己決定力を養えるよう支援している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		日々の様子を情報共有することで、全職員が支援に参加できるよう配慮している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10		関係機関とは必要時に電話や書面で連携を取り、情報共有を行っている。さらに、緊急時の連絡方法を明確にし、スムーズな協力体制を構築している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10		送迎に伴う連絡を活用し情報共有を行うとともに、トラブル発生時には職員が速やかに関係先へ連絡し対応している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	10			情報は主として保護者からの聞き取りにより把握している。加えて、送迎時に保育者や学校と連絡を取り合い、連携に努めている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	10			現在、卒業生は居ないため行ってない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	10			地域研修への参加機会は限られているため、代替として自社研修を行っている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	10			出来る限り交流できる場に行くようにしているがしっかりと交流できていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	10			開催に関する情報収集が不十分であったため、参加できていない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		日々の送迎時のやり取りや保護者からの連絡により、利用者の状況把握に努めている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10			開催情報が無いため参加できていない。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		契約時やモニタリング、担当者会議などを行った際に伝えるようにしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		個別面談等でこども・保護者の意向を丁寧に確認し、最善の利益を優先しながら支援計画へ反映している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10		放課後等デイサービス計画について保護者に分かりやすく説明を行い、内容をご理解いただいたうえで同意をいただいている。	
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		モニタリングや日々の送迎時に子どもに関する相談を受けた際には、内容を十分に検討したうえで丁寧にお伝えしている。		

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	10		実施に向けて計画は進めているが、現段階ではまだ開催には至っていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10	苦情や相談は随時受け付けており、申し出があった際には内容を丁寧に確認し、適切に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		週に一回リタリコ発達ナビのサイト内でブログを掲載しているが保護者に対し発信はしていない。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10	書庫に保管し施錠している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10	ご理解いただけるまで丁寧に説明を重ねるなどして対応している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	10	年一回の事業所が開催する催し時に地域住民にも声を掛け参加を募っている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10	報酬決定により定められた回数分の訓練を事業所内で実施し、その記録はデータとして管理している。保護者等への周知については、今後行っていく予定である。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	上記の避難訓練を行う際に一緒に行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10	服薬や外用薬の対応が必要な利用者については、事前に保護者から十分な聞き取りを行い、誤りが生じないように確認を徹底している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10		医師にはしていない。保護者が医師に確認しそれを聞き対応している。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	年間の安全計画を行い、年一回翌年の安全計画の作成に伴い研修も行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10	安全計画に沿って利用者の安全確保に努めているが、保護者への周知については今後さらに徹底していく。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10	データ上でヒヤリハットを作成している。その際に職員間での共有、職員への聞き取りも行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10	年に2回、虐待防止研修・委員会と共に身体拘束研修も行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10	利用者家庭に事前に話しをし許可を得て支援している。ただし、すぐに身体拘束は行わず、身体拘束せざるを得ない場合にのみ行うことを心掛けている。		